男鹿の未来を拓く挑戦！ サケ造りとまちづくりで,地域の希望の星になる

稲とアガベ株式会社　代表取締役社長

岡　住　修　兵

私は,秋田県男鹿市で「稲とアガベ」という会社を経営しています。アガベとはテキーラの原料なのですが，なぜテキーラの原料が社名になっているかというと，私の妻がテキーラが大好きなことに由来しています。現在，男鹿で事業をやっておりますが，実は生まれも育ちも福岡県北九州市です。大学時代は神戸大学でアントレプレナーシップやベンチャーファイナンスなど起業について学び，その時学んだことが今の事業に活きています。男鹿市で起業したきっかけは，本当に偶然の重なりで，あるとき特に理由はなく日本酒で生きていこうと決めたタイミングがあったのですが，いろいろな日本酒を飲む中で神戸の居酒屋で出会った秋田県の新政酒造の日本酒に感銘を受けました。ぜひ新政酒造で働きたいと思い，その居酒屋の店主に「新政酒造に電話してみようと思う」と話したところ，店主の方がお店の Facebook に「新政で働きたい男の子が来た」とアップしてくれました。それを偶然見た新政酒造の佐藤祐輔社長が「いいっすよ」とコメントしてくれて(笑)，あれよあれよという間に，新政を初めて飲んだ３時間後には新政酒造に入社することが決まりました。こうしてどこか導かれるように酒造りの道に入り，酒造りが非常に面白かったので自分で醸造所を立ち上げることを志し，３年間の準備期間を経て2021年に今の会社を立ち上げました。新政時代に秋田県の方々に非常にお世話になったこともあり，恩返しをしたいという思いで縁あって男鹿市で事業を行うことにしました。

私どもは，改装した旧男鹿駅舎を拠点に酒造りを行っています。旧駅舎の中には 1500Ｌのタンクが五つ並んでいて，麹室なども完備しています。ありがたいことに地元金融機関を中心に，多額の融資を受けることができたため，設備上は十分日本酒も造れます。しかし，私たちが造っているものは厳密に言うと日本酒ではありません。日本酒と呼べないお酒を製造しています。なぜ日本酒を造っていないのか？一番大きな理由は，日本酒業界が新規参入規制のある業界であることです。日本酒業界に新規参入するためには，基本的にはどこかの酒造会社を買収するしか方法がありません。若者が地方の酒造会社を買収し，新ブランドの酒を作った事例はあります。しかし，当時の私は経済原則からすると参入規制のある業界がこのまま残っていくのは難しいと考え，この参入規制を突破する人間になるという目標を掲げました。M＆A で入るのではなくて，正面から交渉して法律を変えることを目標に決めたので，創業当初から日本酒が造れるわけではありませんでした。そこで 2021 年 10 月に「その他の醸造酒製造免許」という，いわゆるどぶろくなどを造れる免許を活用して酒造りを始めました。醸造酒の免許は現在細分化されています。日本酒を造る免許，ワイン･果実酒を造る免許，ビールを造る免許，発泡酒を造る免許などがあります。それぞれレギュレーションがしっかり定められ，それらに当てはまらないものが「その他の醸造酒製造免許」に該当します。従って，今までにない新しい酒造りをすれば，全てこの「その他の醸造酒製造免許」で造ることができます。このことに気付き，今では非常に楽しみながらいろいろな酒を造っています。